

リアル・インド株式ファンド（3ヵ月決算型）

追加型投信／海外／株式

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております「リアル・インド株式ファンド（3ヵ月決算型）」は、2019年6月17日に第37期決算を行いました。

当ファンドは、主としてインド有数の財閥であるTATAグループの投資信託会社が運用する外国籍の投資信託証券を通じて、実質的にインド株式に投資します。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに第36期から第37期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2018年12月18日～2019年6月17日

第36期	決算日：2019年3月15日	
第37期	決算日：2019年6月17日	
第37期末 (2019年6月17日)	基準価額	11,205円
	純資産総額	1,915百万円
第36期～ 第37期	騰落率	6.5%
	分配金合計	200円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

(注2) △(白三角)はマイナスを意味しています(以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

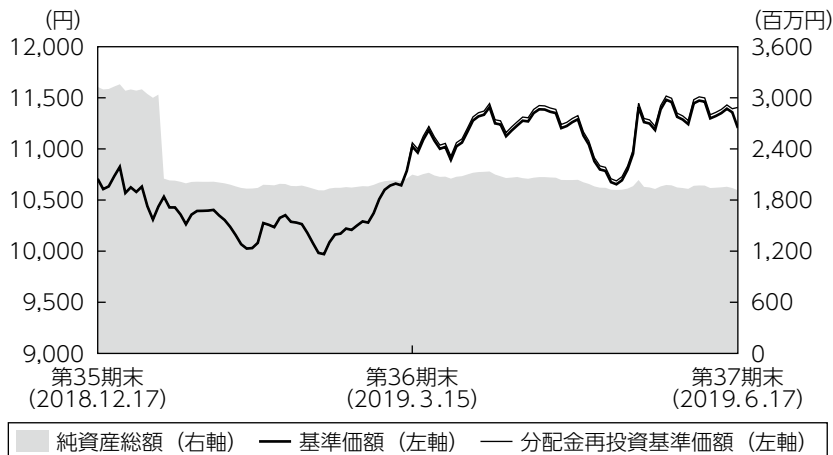
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第36期首：10,707円
 第37期末：11,205円
 (既払分配金200円)
 騰落率：6.5%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注5) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

当ファンドはモリシャス籍のTATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（米ドル建て）（以下、TIOFといいます。）と国内籍のマナー・マーケット・マザーファンド受益証券（以下、マザーファンドといいます。）に投資し、中長期的な投資信託財産の成長を目指すファンド・オブ・ファンズです。主としてインド有数の財閥であるTATAグループの投資信託会社が運用する外国籍の投資信託証券を通じて、実質的にインド株式に投資します。

インド・ルピーが対円で小幅下落したものの、インド株式市場が上昇したため、第37期末の基準価額は11,405円（第36期－第37期分配金込み）と第35期末の10,707円から上昇しました。

1 万口当たりの費用明細

項目	第36期～第37期		項目の概要
	(2018年12月18日 ～2019年6月17日)		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	67円	0.619%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10,750円です。 投信会社分は、信託財産の運用、運用報告書等各种書類の作成、基準価額の算出等の対価 販売会社分は、購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 受託会社分は、運用財産の保管・管理、投信会社からの運用指図の実行等の対価
(投信会社)	(24)	(0.226)	
(販売会社)	(39)	(0.366)	
(受託会社)	(3)	(0.027)	
(b) その他費用	2	0.018	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、外国での資産の保管等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
(保管費用)	(2)	(0.017)	
(監査費用)	(0)	(0.001)	
合計	69	0.637	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

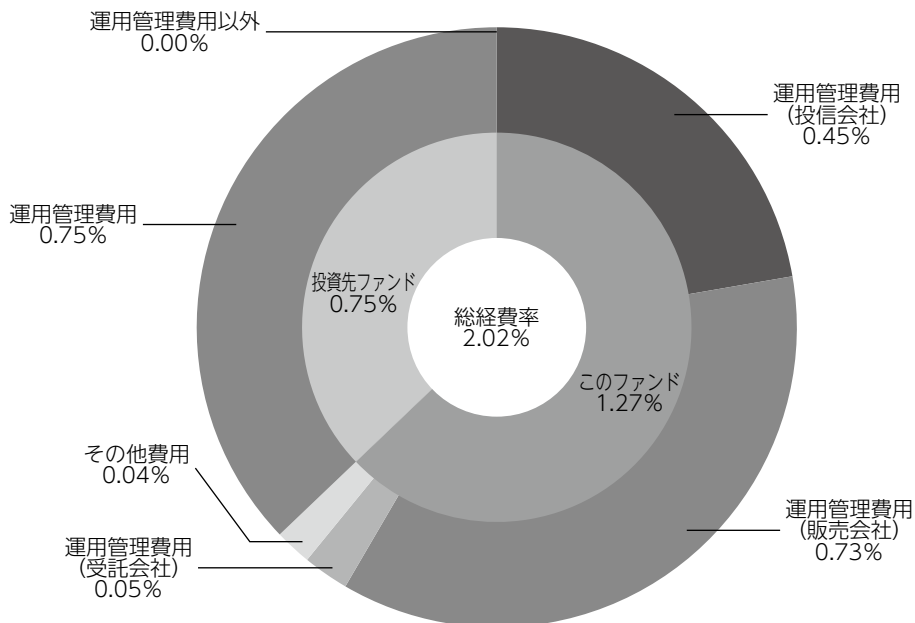
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(注5) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては組入ファンドの概要に表示することとしております。

(参考情報)

◆総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.02%です。



総経費率 (①+②+③)	2.02%
①このファンドの費用の比率	1.27%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.75%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

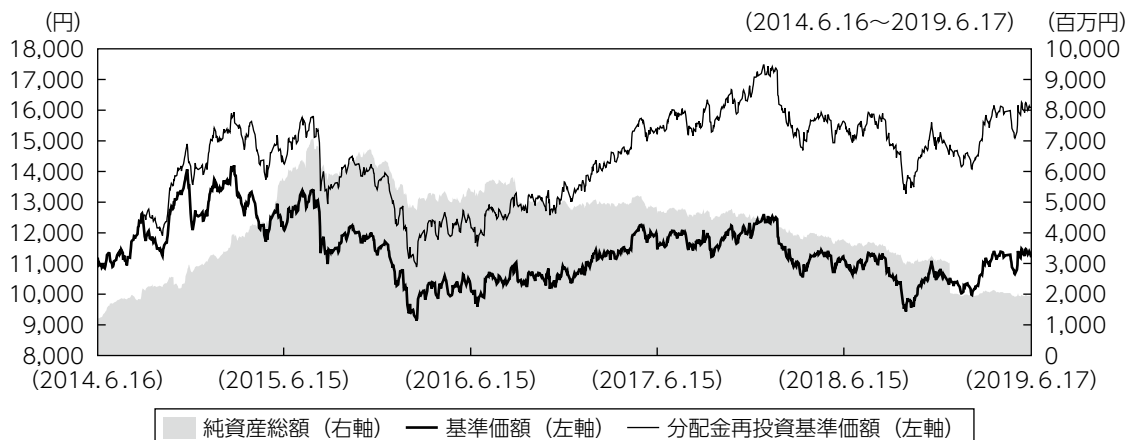
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまが利用するコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年6月16日の基準価額に合わせて指数化しています。

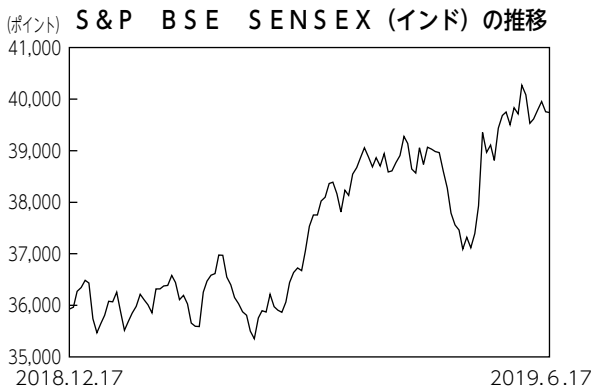
		2014年6月16日 決算日	2015年6月15日 決算日	2016年6月15日 決算日	2017年6月15日 決算日	2018年6月15日 決算日	2019年6月17日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	11,189	12,112	10,159	11,464	11,138	11,205
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	2,110	235	1,080	660	260
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	27.6	△14.3	24.3	2.8	3.0
参考指数の騰落率	(%)	—	16.3	△18.0	27.5	10.2	5.8
純資産総額	(百万円)	1,200	5,689	5,339	4,626	3,758	1,915

- (注1) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注3) 騰落率は1年前の決算当日との比較です。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。参考指数はS & P B S E S E N S E X (円換算) です。参考指数については後掲の<当ファンドの参考指数について>をご参照ください。参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。
- (注5) 参考指数は、基準価額への反映を考慮して、基準価額算出日前々日の指数値を基準価額算出日当日の為替レート(対顧客電信売買相場仲値)で円換算しております。

投資環境

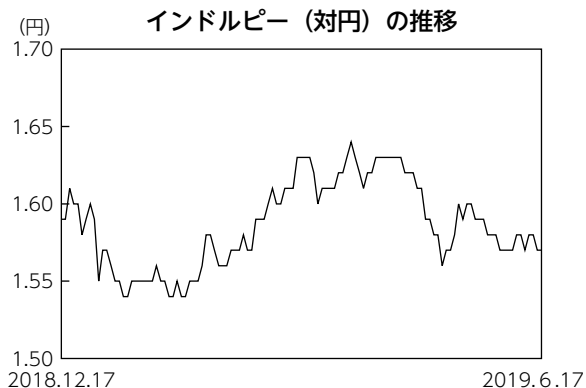
● 株式市場

インド株式市場は上昇しました。RBI（インド準備銀行）による利下げや農村部に対する支援策などを盛り込んだ2019/2020年度（2019年4月～2020年3月）の暫定予算案の発表、米国の利上げ休止観測などが好感された一方で、原油価格の上昇やインド・パキスタン情勢の緊迫化などが嫌気され、2019年2月中旬にかけてはレンジ内での動きとなりました。米中通商協議の進展期待から上昇に転じると、5月開票の下院総選挙でモディ政権の続投が決まるとの期待やRBIによる追加利下げなどを背景に4月中旬にかけて上昇基調を維持しました。5月に入ると米国が2,000億米ドル相当の中国製品に対する関税引き上げを発表し、米中貿易摩擦が悪化すると懸念から中旬にかけて大きく上昇幅を縮めたものの、インドの下院総選挙の出口調査で与党連合が過半数の議席を獲得すると見通しが示されると大きく反発し、その後の開票でモディ首相率いるインド人民党が単独で過半数の議席を獲得すると、一段と上昇幅を拓げました。



●為替市場

インド・ルピーは対円で小幅下落しました。市場の期待ほど緩和的な内容ではなかった12月のFOMC（米国連邦公開市場委員会）声明文や米国の政府機関閉鎖を巡る不透明感から世界的に株式市場が大きく下落したほか、年始の取引が薄いなかで円が急騰したことで、インド・ルピーは1月中旬にかけて下落しました。米中通商協議の進展やモディ政権の続投に対する期待から2月上旬から3月上旬にかけて上昇基調となったものの、米中貿易摩擦の再燃などを受けて4月下旬以降反落しました。



●国内短期金融市場

日銀による量的緩和およびマイナス金利政策などを受けて、国庫短期証券3ヵ月物利回りはマイナス水準で推移しました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

主としてモリシャス籍のT I O Fに投資し、中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行いました。第36期－第37期を通じてT I O Fの投資配分は概ね高位を維持しました。第37期末時点のT I O Fとマザーファンドへの投資配分はそれぞれ93.7%、1.2%程度としました。

●TATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（米ドル建て）

T I O FはTATA・オフショア・インディア・オポチュニティーズ・スキーム受益証券（インド・ルピー建て）（以下、T O I O Sといいます。）を通じて、インド株式に実質的に投資を行い、中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行いました。

T O I O Sでは優秀な経営陣を有する大型株を中心に投資を行い、良好な業績が期待される中型株などを合わせて組み入れました。セクター別では銀行や非耐久消費財、ソフトウェアセクターなどを中心とした投資を行いました。主な変更点としては、銀行セクターの組み入れを引き上げた一方で、セメントセクターの組み入れを引き下げました。また、建設銘柄を新たに買い付けました。

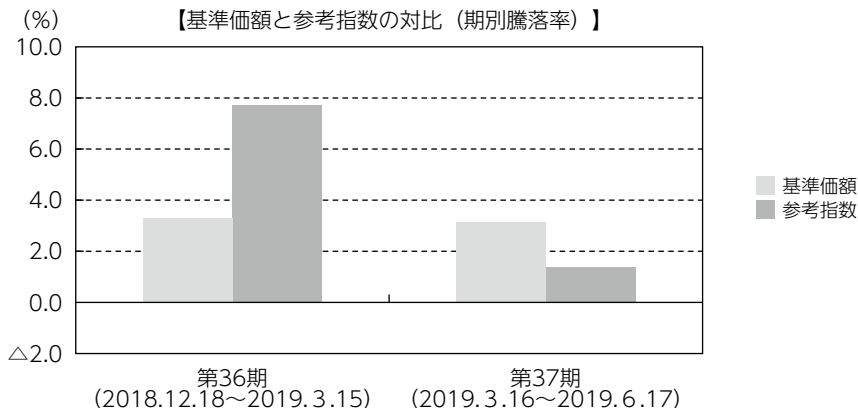


●マネー・マーケット・マザーファンド

主として円建ての公社債に投資することにより、安定した収益の確保を目指し、短期公社債に投資を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

分配金

収益分配金につきましては基準価額水準・市場動向等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第36期	第37期
	2018年12月18日 ~2019年3月15日	2019年3月16日 ~2019年6月17日
当期分配金（税引前）	35円	165円
対基準価額比率	0.316%	1.451%
当期の収益	-円	-円
当期の収益以外	35円	165円
翌期繰越分配対象額	1,892円	1,729円

- (注1) 「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。
- (注2) 当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
- (注3) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

T I O F の高位組み入れを維持し、長期的な値上がり益の獲得を目的とした運用を行います。

●T A T A ・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（米ドル建て）

引き続きT O I O S を通じて優秀な経営陣や競争力に優れたビジネスモデルを有する大型株中心に投資を行い、良好な業績が期待される中型株などを合わせて組み入れる方針です。また、相対的に高い収益の伸びが期待できる銘柄を中心に投資を行い、セクター別では高い市場シェアを有し、収益の拡大が見込める民間銀行や個人所得拡大の恩恵を受けると見られる消費関連セクターの組み入れを高めにする方針です。

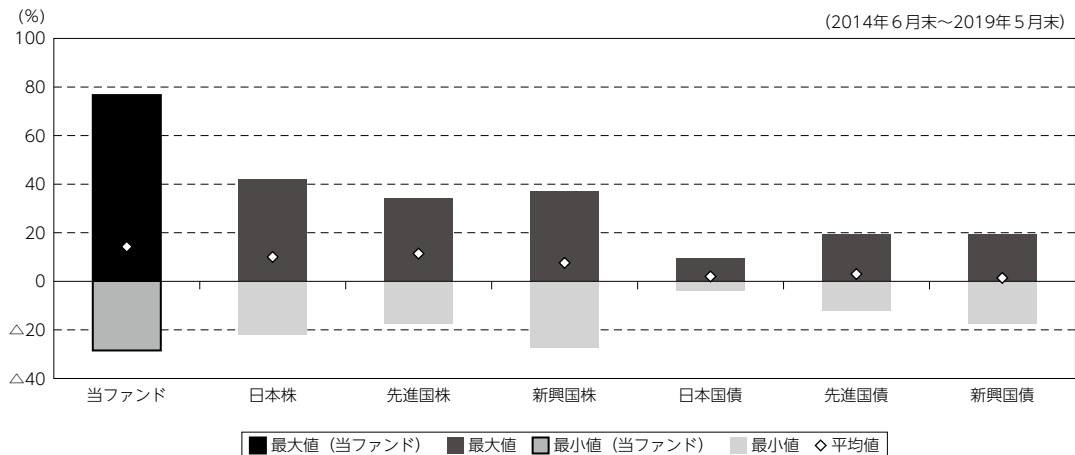
●マネー・マーケット・マザーファンド

引き続き、短期公社債等で運用を行い、安定した収益の確保を目指して運用を行います。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	2010年2月26日から2020年6月15日まで。	
運用方針	投資信託証券を主要投資対象として、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	リアル・インド株式ファンド (3ヵ月決算型)	以下の投資信託証券を通じて、主としてインドの企業が発行する株式等に実質的に投資を行います。 モーリシャス籍外国投資法人 TATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ ジャパンファンド投資証券(米ドル建て)(以下、「TIOF」といいます。) 内国証券投資信託(親投資信託) マネー・マーケット・マザーファンド受益証券
	マネー・マーケット・マザーファンド	わが国の公社債。
運用方法	投資信託証券を通じて、主としてインドの企業が発行する株式等に実質的に投資を行い、投資信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。 各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市場動向等を勘案して決定するものとし、原則としてTIOFの組入比率は高位とすることを基本とします。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。TIOFへの投資に当たっては、TATAアセットマネジメント リミテッドおよびTATAアセットマネジメント(モーリシャス)プライベート リミテッドから投資助言および情報提供を受けます。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の全額とします。分配金額は、委託者が基準価額水準や市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	76.7	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△28.5	△22.0	△17.5	△27.4	△4.0	△12.3	△17.4
平均値	14.3	10.0	11.4	7.6	2.0	3.0	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年6月から2019年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

*各資産クラスの指数

日本株……東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年6月17日現在）

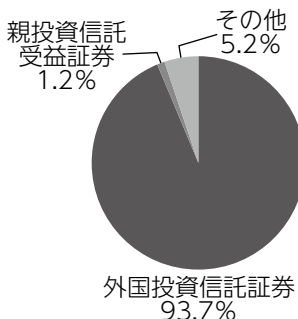
◆組入ファンド等

	第37期末
	2019年6月17日
TATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券	93.7%
マネー・マーケット・マザーファンド	1.2
組入銘柄数	2銘柄

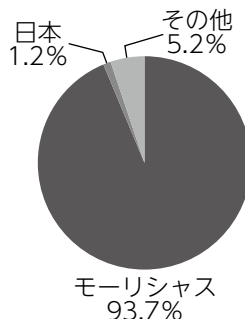
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

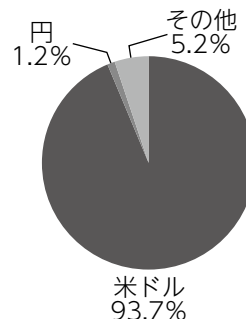
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注4) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

項目	第36期末	第37期末
	2019年3月15日	2019年6月17日
純資産総額	2,098,023,901円	1,915,117,129円
受益権総口数	1,902,906,210口	1,709,107,019口
1万口当たり基準価額	11,025円	11,205円

(注) 当作成期間（第36期～第37期）における追加設定元本額は13,107,029円、同解約元本額は1,224,237,954円です。

組入ファンドの概要

[TATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券]

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

(2017年4月1日～2018年3月31日)
当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

◆組入上位10銘柄

(2018年3月28日現在)

	銘柄名	業種	比率
1	HDFC Bank Ltd.	銀行	7.6
2	Reliance Industries Ltd.	石油製品	6.5
3	ICICI Bank Ltd.	銀行	5.3
4	HDFC Ltd.	金融	5.1
5	Kotak Mahindra Bank	銀行	4.3
6	ITC Ltd.	非耐久消費財	3.2
7	Maruti Suzuki India Ltd.	自動車	2.9
8	HCL Technologies Ltd.	ソフトウェア	2.8
9	Interglobe Aviation Ltd.	輸送業	2.8
10	Larsen & Toubro Ltd.	建設計画管理	2.8
組入銘柄数		46銘柄	

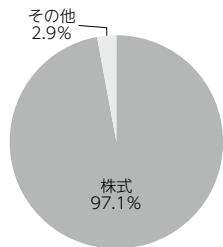
(注1) 上記の表の比率は、TATA・オフショア・インディア・オポチュニティーズ・スキーム受益証券（インド籍：インドルピー建て）の各比率をTATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（モーリシャス籍：米ドル建て）の純資産総額に対する比率に換算したものです。

(注2) 上記の表は、TATAアセットマネジメント（モーリシャス）プライベート リミテッドが作成したデータをもとに記載しております。

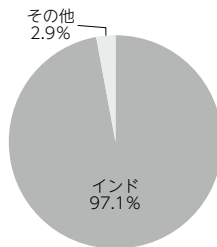
(注3) 「TATA・インディアン・オポチュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（モーリシャス籍：米ドル建て）」は「TATA・オフショア・インディア・オポチュニティーズ・スキーム受益証券（インド籍：インドルピー建て）」を通じて投資を行っております。

(注4) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

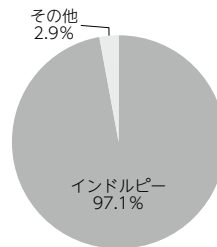
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 上記のグラフの比率は、T A T A ・オフショア・インドア・オポテュニティーズ・スキーム受益証券（インド籍：インドルピー建て）の各比率をT A T A ・インディアン・オポテュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（モーリシャス籍：米ドル建て）の純資産総額に対する比率に換算したものです。

(注2) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注3) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

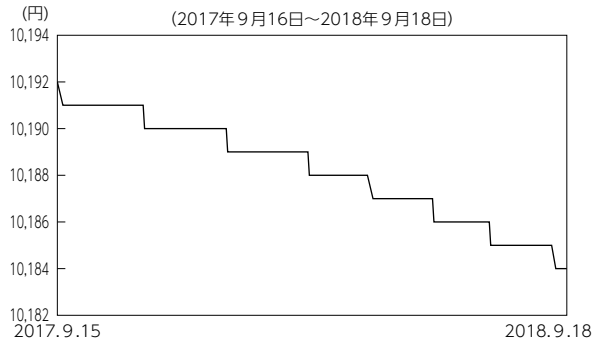
(注4) 直接投資しているのはファンド（受益証券）ですが、その先の投資資産を表示してあります。

(注5) 上記のグラフは、T A T A アセット マネジメント（モーリシャス）プライベート リミテッドが作成したデータをもとに記載してあります。

(注6) 「T A T A ・インディアン・オポテュニティーズ・ファンド・ジャパンファンド投資証券（モーリシャス籍：米ドル建て）」は「T A T A ・オフショア・インドア・オポテュニティーズ・スキーム受益証券（インド籍：インドルピー建て）」を通じて投資を行っております。

【マネー・マーケット・マザーファンド】

◆基準価額の推移



◆1万口当たりの費用明細

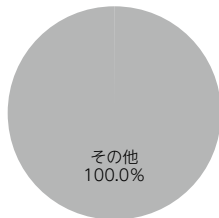
該当事項はございません。

(2017年9月16日～2018年9月18日)

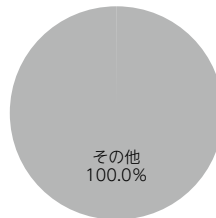
◆組入上位10銘柄

2018年9月18日現在、有価証券等の残高はございません。

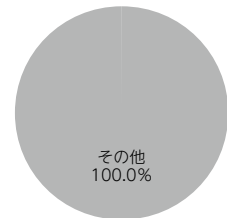
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注3) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

<当ファンドの参考指数について>

● S & P B S E S E N S E X (円換算)

S & P B S E S E N S E Xは、ボンベイ証券取引所に上場する銘柄の中で時価総額が大きく、売買流動性の高い30銘柄で構成される、浮動株ベースの時価総額加重指数です。S & P B S E S E N S E X (円換算)は、S & P B S E S E N S E XをアセットマネジメントOneが円換算し、2006年5月18日を100として指数化したものです。

「S & P B S E S E N S E X」は、S & Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。

S & Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングズLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S & P B S E S E N S E Xのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数 (T O P I X)」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所 (株東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「M S C I コクサイ・インデックス」は、M S C I I n c. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はM S C I I n c. に帰属します。また、M S C I I n c. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「M S C I エマージング・マーケット・インデックス」は、M S C I I n c. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はM S C I I n c. に帰属します。また、M S C I I n c. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「N O M U R A - B P I 国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「F T S E 世界国債インデックス (除く日本)」は、F T S E F i x e d I n c o m e L L Cにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はF T S E F i x e d I n c o m e L L Cの知的財産であり、指数に関するすべての権利はF T S E F i x e d I n c o m e L L Cが有しています。
- 「J P モルガンG B I - E M グローバル・ディバースファイド」は、J . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ . P . モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

(このページは白紙です)

(このページは白紙です)

